

# 令和元年度 教育事業 教員免許状更新講習

## 「教科指導・学級経営に生かす体験活動」

### 1 趣旨

教員が学習指導要領の改訂で示された児童生徒の「体験活動」の必要性について一層の理解を深めるとともに、活動プログラムの実習を通して「体験活動」の充実に資する。

### 2 ねらい

- (1) 学習指導要領で示されている体験活動の必要性について理解を深める。
- (2) 実習を行うことにより、体験活動の指導力を高める。
- (3) 体験活動を行う上でのリスクマネジメント、危機管理能力を高める。

### 3 日程

- (1) 期 日 令和元年8月16日(金)・17日(土)・18日(日) 2泊3日
- (2) 参加者 35名
- (3) 対象 小・中・高校免許状更新講習対象者

8月16日 (金)	午前	○受付 ○開講式：所長挨拶 ○講義「学習指導要領と体験活動」 講師：金沢星稜大学 教授 井上好人 ○演習「体験学習法の体験①」 講師：交流の家 次長 ・体験学習法とは・体験学習法エクササイズ他
	午後	○演習「体験学習法の体験②」 講師：交流の家 次長 ・体験学習法（新聞紙タワー、謎の宝島） ○講義「体験活動の教育的意義」 講師：金沢星稜大学 教授 池田幸應
8月17日 (土)	午前	○実習「体験活動の実際①」 講師：交流の家 企画指導専門職 ・火起こし体験・野外炊飯（カレーライス作り）
	午後	○実習「体験活動の実際②」 講師：交流の家 企画指導専門職 ・いかだ体験
8月18日 (日)	午前	○実習「体験活動の実際③」 講師：交流の家 企画指導専門職 ・ポイントオリエンテーリング
	午後	○講義「体験活動と安全管理」 講師：金沢星稜大学 准教授 芥川元喜 ○履修認定試験 ○閉講式 次長挨拶

### 4 成果と課題

- (1) アンケートによる事業評価

教育事業アンケートの満足度（「満足」と「やや満足」の評価割合）は、事業全体、プログラム、事業運営、職員の指導・助言や対応の4項目全てにおいて100%であった。

【事業全体の満足度】	満足：82.8%、やや満足：14.3%、やや不満：2.9%
【プログラム（講義・活動）の満足度】	満足：65.7%、やや満足：34.3%
【事業運営の満足度】	満足：80.0%、やや満足：17.1%、やや不満：2.9%
【職員の指導・助言・対応の満足度】	満足：85.7%、やや満足：11.4%、やや不満：2.9%

<参加者の記述より>

- 体験活動を通して、日頃の学校生活の中でつきたい力が自然と身につくことが多くあると感じた。
- 体験活動ではたくさん子供たちを成長させることができることがわかった。
- 体験活動ではだれでも同じように達成感が得られる仕組みになっていると感じた。
- 県内外の先生と交流できたことで、日頃思っていることや先生方の考えを知ることができ、みんなで頑張るからこそその達成感や充実感を味わうことができた。
- 体験活動を実際に行いながら、子供の立場に立って体感できたり、講義を通じて体験活動という切り口で教員としての在り方等を考えたりした。子供と教師の両面の立場で考えられたのがよかった。子供へ指導するときの視点がわかった。
- よく考えられた体験活動があると、ねらいが達成できるということが分かった。
- 人とつながれることは、人生を豊かにすると感じた。
- 活動する中で、自然と会話が生まれ協力したり一体感が生まれたりすることはよかった。
- 講義内容がもりだくさんだったのか、早口で聞きづらい時もあった。
- 泊まったらもっと学校間情報が交換できて有意義な時間になると思う。
- 認定試験は持込不可であったが、来年度も同様であれば、初日に説明する必要がある。

(2) 成果と課題

《成 果》

- ・ 大学教授と交流の家職員それぞれの専門性を生かした講義・演習・実習を通して、自然体験活動の指導者としての必要な知識や技能を習得することができた。
- ・ 体験活動の教育的意義、安全管理の重要性を学び、今後の指導に生かす視点を学ぶことができた。
- ・ 県内外の異年齢、異校種の参加者がグループを構成した講習・実習を通して、交流・情報交換したことで思いを共有でき、今後の教育活動に生かせると実感できた。
- ・ 自分たちが指導する側と体験をする側（子供の立場）の両面の立場で、体験から実感として達成感や一体感を感じることができ、体験活動の重要性を認識できた。

《課 題》

- ・ 今年度の申込開始時期が3月下旬の平日で授業日であった。人気があるとの口コミを聞いて急いで申し込んだ受講者がおり、「授業を抜けて申込した」「子供に自習させて申込した」との意見があった。この点について、時期をずらすなど検討する必要がある。
- ・ 宿泊する参加者が11名であった。泊を伴うことで参加者同士の交流が一層深まり、より多くの有意義な情報交換ができるという意見や、5時以降のフリーがもったいないと感じる等の意見があった。次年度は情報交換会の充実・時間の使い方を工夫する。
- ・ 金沢星稜大学教授の講義は、全て2時間で内容的に充実していたが、資料が細かかったり、説明が早くてまとめきれないところもあった。



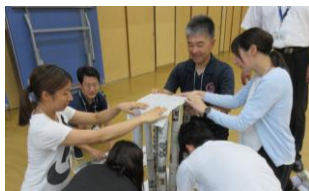
講義「学習指導要領と体験活動」



講義「体験活動の教育的意義」



講義「体験活動と安全管理」



演習「体験学習法の体験②」



演習「体験活動の実際①」火おこし体験



演習「体験活動の実際②」いかだ体験